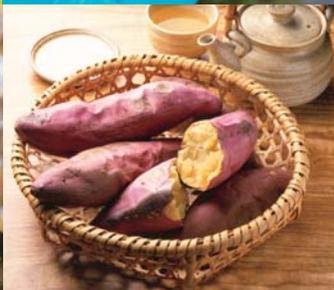


三菱UFJフィナンシャル・グループ
MUFG通信

第8期第1四半期(平成24年4月1日~平成24年6月30日)



Quality for You

確かなクオリティを、明日へ。世界へ。



MUFG

証券コード：8306

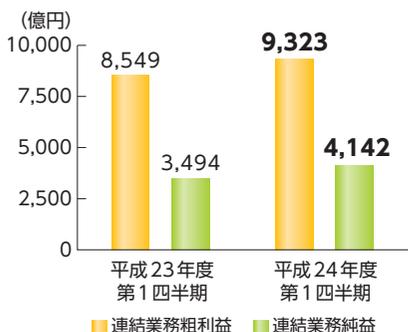
平成24年度第1四半期の業績

✓ 決算のポイント

- 連結四半期純利益(平成24年4月～6月)は、1,829億円。通期業績目標(6,700億円)対比の進捗率は27%と、順調なスタート
- 貸出金は、国内法人貸出・住宅ローンの減少により平成24年3月末比0.4兆円減少。海外貸出は、為替要因を除いたベースでは0.5兆円増加。預金は、個人預金の増加を主因に0.5兆円増加
- 連結自己資本比率は、平成24年3月末比0.17ポイント低下の14.73%

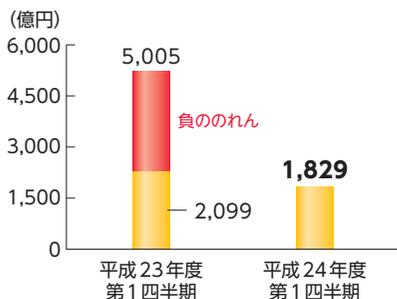
損益の状況

連結業務粗利益・連結業務純益



連結業務粗利益は、国内預貸金収益や市場運用利息、消費者金融子会社の収益などが減少した一方、海外貸出収益や国債等債券関係損益などが増加した結果、前年同期比773億円増加の9,323億円となりました。営業費は、海外事業強化を主因に125億円増加しました。この結果、**連結業務純益**は647億円増加の4,142億円となりました。与信関係費用総額は、貸倒引当金戻入益等により銀行・信託銀行合計では利益計上となったほか、その他子会社の費用発生も限定的であったことから41億円改善し、148億円の費用となりました。株式等関係損益は、321億円悪化し545億円の損失となりました。持分法による投資損益は、2,996億円悪化しました。前年同期にモルガン・スタンレー優先株の普通株への転換に伴う一時的利益(負ののれん2,906億円)を計上していたためです。以上の結果、**連結四半期純利益**は1,829億円となり、通期業績目標(6,700億円)対比の進捗率は27%と、順調なスタートとなりました。

連結四半期純利益



(注) 業績説明に使用している計数は、各々単位未満を切り捨てて表示しています。従って、表中のある項目の計数と他の項目を加減計算した結果とが一致しないことや、説明文中の増減数値とグラフ・表中の計数を加減計算した結果とが一致しないことがあります。

貸出金・預金の状況

貸出金・預金



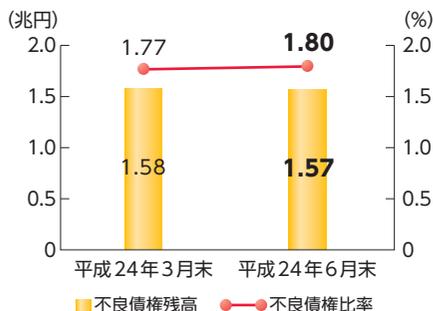
貸出金は、国内法人貸出・住宅ローンの減少により、平成24年3月末比0.4兆円減少の84.0兆円となりました。

海外貸出は386億円の増加となりましたが、為替要因を除いたベースでは0.5兆円の増加となります。

預金は、国内法人預金は減少したものの、個人預金が増加したことなどから、0.5兆円増加の125.3兆円となりました。

不良債権残高・比率の状況

不良債権残高・比率



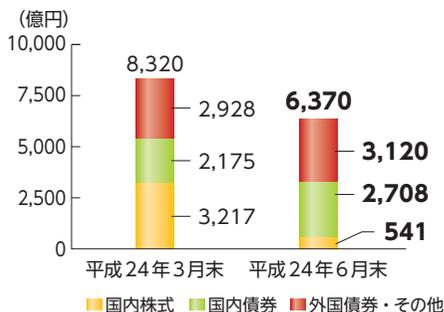
不良債権残高*は、平成24年3月末比でほぼ横ばいの1.57兆円となりました。

不良債権比率*は、0.02ポイント上昇の1.80%と、引き続き低水準を維持しています。

*三菱東京UFJ銀行と三菱UFJ信託銀行の2行合算+信託勘定

有価証券の含み損益の状況

有価証券の含み損益

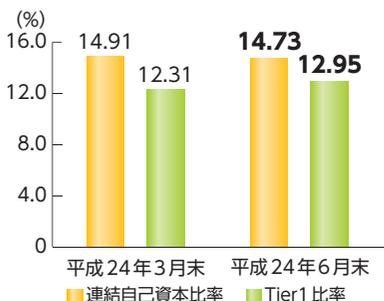


有価証券の含み損益（その他有価証券評価差額）は、平成24年3月末比1,950億円減少し、6,370億円の含み益となりました。株価低迷の影響で国内株式の評価損益が2,676億円減少したことが主因です。

平成24年度第1四半期の業績

連結自己資本比率・Tier1比率の状況

連結自己資本比率・Tier1比率



連結自己資本比率*は、平成24年3月末比0.17ポイント低下し14.73%となりました。

Tier1比率**は、0.64ポイント上昇し、12.95%となりました。

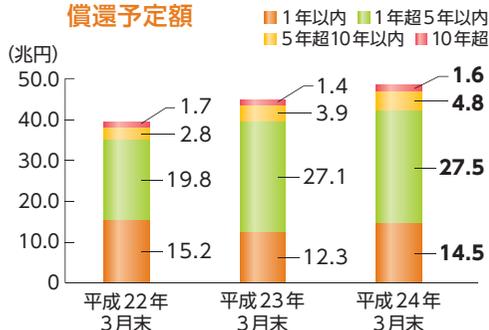
* 自己資本比率=自己資本÷リスク・アセット

** Tier1比率=中核的な自己資本(資本金・剰余金など)÷リスク・アセット

よくあるご質問

Q 日本国債の保有状況について教えてください。 **保有国債残高の推移ならびに期間別の償還予定額**

A MUFGグループは、平成24年3月末時点で、48.5兆円の日本国債を保有しています(6月末時点では、49.2兆円)。このうち、86%が5年以内に償還を迎えるもので、平均残存期間は3年程度です。



Q 日本国債のリスク管理について教えてください。

A 保有している日本国債については、市場動向を見ながら慎重な運用を行いつつ、適切なリスク管理を注意深く行っています。

具体的には、日本国債の格下げや財政リスクの顕在化などにより金利が大幅に上昇するような極端な状況を想定し、当社の損益や自己資本に与えるインパクトを分析するストレステストを定期的を実施しています。加えて、金利上昇の予兆をできるだけ早期に検知し、危機に対して素早く対応できるよう、取引部署・リスク管理部署が、経済指標や財政統計、評価損益の動向など各種項目を注意深く観察し、その結果を共有しています。

(単位：億円)

損益の状況(連結)	平成23年度第1四半期	平成24年度第1四半期
	(平成23年4月～6月)	(平成24年4月～6月)
連結業務粗利益(信託勘定償却前)	8,549	9,323
資金利益	4,709	4,187
信託報酬+役員取引等利益	2,479	2,356
特定取引利益+その他業務利益	1,360	2,779
営業費	5,055	5,180
連結業務純益 (一般貸倒引当金繰入前・信託勘定償却前)	3,494	4,142
臨時損益(△は費用)	2,389	△ 735
与信関係費用総額*(△は費用)	△ 189	△ 148
株式等関係損益	△ 224	△ 545
持分法による投資損益	3,098	101
経常利益	6,012	3,407
特別損益(△は損失)	102	△ 230
法人税等合計	799	1,031
少数株主利益	310	316
連結四半期純利益	5,005	1,829
除く負ののれん	2,099	1,829

* 与信関係費用(信託勘定)+一般貸倒引当金繰入額+与信関係費用(臨時損益内)+償却債権取立益+貸倒引当金戻入益+偶発損失引当金戻入益(与信関連)

(単位：億円)

資産・負債の状況(連結)	平成24年3月末	平成24年6月末
資産の部	2,188,616	2,222,453
貸出金	844,926	840,771
有価証券	782,647	781,436
負債の部	2,071,858	2,104,185
預金	1,247,892	1,253,601
純資産の部	116,757	118,267

(単位：億円)

連結自己資本比率の状況(第一基準)	平成24年3月末	平成24年6月末
自己資本比率	14.91%	14.73%
Tier1 比率	12.31%	12.95%
自己資本	127,425	124,211
Tier1	105,222	109,211
リスク・アセット	854,565	842,770

市場連結事業本部

MUFGグループでは、平成24年7月に市場連結事業本部を設立しました。

今回のクローズアップMUFGでは、その設立の背景や成長戦略について、MUFG市場連結事業本部長の森崎孝常務執行役員に話を聞きました。

市場連結事業
本部長
森崎 孝



Q. 市場連結事業本部設立の背景を教えてください。

A. MUFGグループは、平成24年7月、市場連結事業本部を設立しました。市場連結事業本部は、リテール、法人、国際、受託財産に続く5番目の連結事業本部となり、今後は傘下の銀行・証券会社における市場業務を一体的に運営していきます。市場業務とは、金利・為替等のデリバティブや日本国債・米国債等の債券など、市場性の商品を取り扱う業務で、この分野での傘下銀行・証券会社の強みを融合することで、お客さまの幅広い金融ニーズにグループとして総合的に応えできる体制を構築していきます。

欧州債務問題などから先進国の景気低迷は長期化の様相を呈していますが、一方でアジアを中心とする新興国は比較的高い成長を継続しています。このため、多くの日本企業がさらなる成長を求め、アジアなどの新興国に活躍の場を広げています。また、世界の主要企業もグローバルな事業展開を進めており、国境を越えた商取引や資金の流れは年々多様化し、活発になっています。こうした変化に伴い、お客さまの商流を網羅的に捉え、グループとしてより付加価値の高いサービスを提供していくことが、ますます重要になってきています。

経営管理の観点からも、グループとしての一体的な運営は有効です。リーマンショック以降、金融機関に対する規制強化が進み、またMUFGが海外業務を拡大していくなかで、これら規制への対応や外貨流動性の確保などについて、経営管理上の重要性はますます増しています。市場連結事業本部の設立により、各社ごとではなくグループとしての最適化を追求し、より効率的な経営の実現を目指します。リスク管理においても、銀行・証券会社を一体として状況を把握していきます。

Q. 今後の成長戦略について聞かせてください。

A. お客様の金利や為替に対するリスクヘッジなどの経営課題を、デリバティブなどの市場性商品を提供することで解決する「セールス&トレーディング業務」の強化を進めていきます。例えば、お客様が社債市場を通じて資金調達する場合、社債発行のお手伝いに加え、社債の利息支払いに関わる金利リスクのヘッジ取引や、外貨建て社債の場合には為替リスクのヘッジ取引なども、グループで総合的に提案していきます。

銀行と証券会社では、得意とするお客様やサービスが異なります。銀行は、資金借入ニーズのあるお客様に対する融資業務や、貿易・海外進出などに関わる支援業務を得意としています。一方、証券会社は、市場からの資金調達ニーズがあるお客様に対する社債引受業務や、資金運用ニーズの高いお客様に対する運用商品の提供業務を得意としています。銀行と証券会社は、お互いの得意分野を共有することで、国内のみならず海外でもお客様の層とお取引の幅を広げ、収益の拡大を目指します。そして、他の連結事業本部との連携も深め、MUFGの総合力をさらに発揮することで、その効果を最大化していきます。

また、お客様の金融ニーズのグローバル化に対し、銀行では、従来の東京、ニューヨーク、ロンドン、シンガポール、香港に加え、中国、インド、タイ、オーストラリア、インドネシア、マレーシアの6つの地域（平成24年8月末時点）を国際部門との共同管理とし、各地域で高付加価値な提案ができるよう市場部門のネットワークを拡大しています。加えて、従来の地域を軸とした組織体制に、新興国通貨を専門的に取り扱う部署など、地域横断的な業務支援体制を加えることで、さらにきめ細かな対応をしていきます。

■ 市場連結事業本部のネットワーク



1

三菱東京UFJ銀行、 「Do Smart▶」プロジェクトをスタート

三菱東京UFJ銀行では、個人のお客さま向けサービス向上プロジェクト「Do Smart▶」をスタートさせました。お客さまにとって「もっと使える、もっと頼れる銀行」を目指していきます。

「もっと使える銀行」に向けては、インターネットやスマートフォンを通じたサービスのほか、店頭でのサービスを大きく進化させ、お客さまの利便性を向上させていきます。「もっと頼れる銀行」に向けては、資産運用などのご相談において、お客さまのニーズにきめ細かくお応えする態勢を整えていきます。サービス向上の具体例は以下のとおりです。

(1) 外貨預金リアルタイム為替レート取引の開始

平成24年5月、インターネットバンキング・モバイルバンキング・ケータイアプリバンキングでの外貨預金取引において、リアルタイム為替レート取引を開始しました。

インターネットなどを通じて外貨預金をご利用される場合は、外国為替市場の実勢相場を反映し、刻一刻と変動する為替レートでお取引いただけるようになりました。また、為替手数料も窓口より大幅に引き下げました。

(2) スマートフォン向けサービスの拡充

平成24年5月、スマートフォンのアプリケーションに、お振り込み・お振り替えのサービスを追加しました。また、8月にはスマートフォン向けのインターネットバンキングでも円定期預金の取引ができるようになりました。今後も外貨預金など、お客さまのご要望の多いものを中心に、順次取り扱いサービスを拡充していきます。

平成24年7月から、「Do Smart▶」のテレビCMもスタートしています。阿部寛さんをはじめ、三浦春馬さん、石原さとみさん、小日向文世さん、成海璃子さんが三菱東京UFJ銀行のサービスを紹介しています。

三菱東京UFJ銀行は、お客さまとそのご家族の末永い幸せに貢献できるよう、引き続きライフステージに応じた最適なサービスを提供していきます。



2

三菱東京UFJ銀行、 オーストラリアのパース出張所を開業

平成24年4月、三菱東京UFJ銀行は、シドニー支店パース出張所を開業しました。オセアニア地域には、シドニー、メルボルンおよびニュージーランドのオークランドと、充実した拠点網を有していますが、今回のパース出張所の開業によってネットワークはさらに充実しました。

パースは、周辺地域で天然ガスや鉱物資源などが豊富なことから、資源関連ビジネスの中核都市となっており、大手資源・エネルギー企業の拠点が数多く所在しています。こうしたお客さまとのパイプを太くし、お取引を拡大していきます。6月にはLNG開発の権益取得に関する協調融資案件の委任を受けるなど、順調なスタートを見せています。

今後もお客さまのご要望にお応えしつつ、ネットワークを最大限に活用し、より一層充実した金融サービスの提供に取り組んでいきます。



3

三菱東京UFJ銀行、 国際業務部アジア業務開発室を新設

平成24年5月、三菱東京UFJ銀行は、シンガポールに「国際業務部アジア業務開発室」を新設しました。

昨今、アジアに進出している企業の多くが、現地での管理体制の高度化を進めていることに加え、市場開拓などを目的に中堅・中小企業の進出が増加するなど、お客さまのアジアにおける活動は活発化しています。これに伴い、お客さまの金融ニーズも多様化・高度化していることから、これまでの国内拠点からコンサルティングサービスを提供する体制に加え、現地にも組織を設置し、タイムリーにより質の高いサービスを提供できる態勢を整えました。

まずはシンガポールを起点にアセアンやインド、オセアニアなどのお客さまに対してサービスを提供していきますが、今後、上海および香港でも同様の組織を設置し、お客さまのご要望にお応えしていきます。



● 「MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金」

「MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金」では、東日本大震災により親を亡くされた小学生・中学生・高校生を対象とする奨学金プログラムを中心に、「学校」を基点として、さまざまな活動を中長期的に行っています。

● 「奨学金プログラム」

プログラム開始時に10万円、高校卒業までの在学期間に月額2万円(年間24万円)の奨学金を対象の生徒に給付するものです。毎年募集しており、平成24年度の対象者は1,225名となりました。

● 「花壇再生プログラム」

津波で大きな被害を受けた岩手県、宮城県、福島県の小学校・中学校・高校をMUFGグループ各社の社員が訪問し、花壇の再生に取り組んでいます。これまでに12回実施し、約360名の社員が、ボランティアとして参加しました。



● 第1回 TOMODACHI MUFG 国際交流プログラム

MUFGは、米国の非営利団体米日カウンシルが主催する日米相互交流と震災復興支援を目的としたTOMODACHI イニシアチブに参画しており、その一環として、「TOMODACHI・MUFG 国際交流プログラム」を実施しています。これは、宮城県内のユネスコスクール加盟校在籍者と「MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金」奨学生(中学3年生～高校生)を対象に、米国でホームステイやボランティア活動、現地企業・大学への訪問などを体験してもらい、現地の方々と交流していただくものです。第1回目目のプログラムは平成24年7～8月に行われ、生徒と教職員合計24名が参加しました。



■白神山地周辺地域で10万本の植樹活動が完了

平成24年6月、MUFGが5年にかけて実施してきた、青森県の世界遺産「白神山地」周辺地域での植樹活動が完了しました。この活動は、人類共通の“たからもの”を未来へ引き継いでいくことを目的とした「守ろう地球のたからもの」プロジェクトの一環として、MUFGと三菱UFJ環境財団、日本ユネスコ協会連盟が共同で実施してきたものです。5年間で、延べ約500名のMUFGグループ各社の社員が参加し、地元の皆さまにもご協力いただきながら、10万本のブナやミズナラなどを植樹しました。



今後も「守ろう地球のたからもの」プロジェクトの充実を図り、環境保全活動や社会貢献活動に取り組んでいきます。

平成24年の株主特典コース受付終了のお知らせ

平成23年12月にご案内した平成24年の株主特典コース（ピーターラビット™オリジナルグッズまたは「MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金」への寄付）の受付は、終了しました。多くの株主さまからご応募いただき、誠にありがとうございました。なお、株主さまのご不在・住所不明などにより当社に返送されたグッズにつきましては、平成24年9月30日までの保管となりますのでご了承のほどお願い申し上げます。

「ご優待クーポン券」は平成24年12月28日までご利用いただけます。詳細は平成23年12月にお送りしました「ご優待サービスご利用ガイド2012」をご確認ください。

お問い合わせ先：MUFG株主倶楽部専用デスク 0120-321-629
(受付時間 土・日・祝祭日を除く9：00～17：00)

グループメッセージについて

Quality for You

確かなクオリティを、明日へ。世界へ。

「Quality for You」は
『質』の高いサービスの提供を通じて、
お客さま一人ひとりの生活や一社一社の事業の
『質』の向上をお手伝いしたい。
そして『You=お客さま』を基点に『You=地域・社会』の
発展にも貢献していきたい」という
私たちの姿勢を表しています。
「確かなクオリティを、明日へ。世界へ。」は
「いかなる時代にあっても『確かなクオリティ』を
お届けし、お客さまの成長・歩み・夢を、
『明日へ』、『世界へ』つなげていきたい」
という私たちの想いを表しています。

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

〒100-8330 東京都千代田区丸の内2-7-1

電話03(3240)8111(代表)

URL:<http://www.mufig.jp/>

株式に関するお手続きについてご不明な点などがございましたら、
以下の株主名簿管理人の連絡先にお問い合わせください。
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部テレホンセンター
電話:0120-232-711(通話料無料)
(受付時間 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)